

翻訳ワークショップ・シンポジウム企画委員会主催・文学研究科後援

# 翻訳 ワークショップ シンポジウム

2014年3月10日(月)  
北海道大学人文社会棟 文系6番

午前の部：午前10時30分～12時30分

## Workshop: Learning Translation

北大卒の翻訳者が北大生を対象に実際に翻訳の授業を行います。  
受講希望者は企画者に申し出てください。参観は自由です。

講師：藤井 光（同志社大学文学部英文科准教授）

北大文学部・文学研究科(修士・博士)卒業後、学術振興会研究員として柴田元幸のもとで東京大学現代文芸論研究室の草創期に携わる。柴田がサルバドール・プランセシア著『紙の民』(白水社、2011年)の帯文において、「これだけ奇妙奇天烈で、これだけ悲しく、これだけ笑える小説が他にあったら教えてほしい。そういう奇妙奇天烈で悲しく笑える、だが訳するには種々の困難が伴うこの小説をあっさり訳してしまう訳者が他にいたら教えてほしい」と絶賛した新進気鋭の研究者・翻訳者。テア・オブレヒト著『タイガーズ・ワイフ』(新潮社)で、2013年本屋大賞(翻訳小説部門)受賞。

午後の部：午後2時00分～4時30分

## Symposium: Teaching Translation

北大文学部・大学院で翻訳論を担当する教員が加わり、文芸翻訳研究・教育の面白さや難しさ、課題とその可能性について発表・討論を行います。学生も教員も参加自由です。

藤井 光(同志社大学文学部英文科准教授)

翻訳にとって成功の条件とは何か

中村 三春(本文学研究科映像・表現文化論講座教授)

「タイランド」と翻訳の村上春樹—日本語の自由間接/直接表現  
晒科 洋輔(本文学研究科修士課程西洋文学講座2年)

北大文芸翻訳教育の現場から—Not Looking Up, But Looking Level

企画者：瀬名波栄潤(内線：4085・メールアドレス：june@let.hokudai.ac.jp)